この度はオリジナル教則本のご購入、誠にありがとうございます。
本書は過去に配信しておりましたメールマガジン「週刊ジャズスタディーマガジン」にて研究してまいりました一部の内容を再構築し新たな要素を加えた一冊となっております。

付属のトランスクリプションについて

本書にはLage Lund氏によるジャズスタンダード２曲にわたるテーマのメロディーのトランスクリプションと分析による構成となっております。どちらもLage Lund氏のギタートリオによる録音となりますので、ギターの可能性を探る上では大変有意義なソースとなっております。本書では譜面の掲載はございませんが、トランスクライブの際にベースも採譜していきつつコード進行のアレンジやアプローチなどを考察していきました。数週間に渡り丁寧にトランスクライブしていきましたのでソースの情報力は確かなものとすることが出来ました。

音源の活用について

本書ではmp３ファイルをブラウザ上からリスニングすることができるような構成となっております。 音源はGuitar Pro７でのMidi音源を添付したものとなるので本物のサウンドとは別のものとなります。

そのため学習者の皆様には以下の２枚の音源を手にしていただき、実際の録音を丁寧にリスニングされ学習されることをご提案させていただきたいと思います。
添付されているmp３ファイル(ブラウザ上の)は音の構成(メロディーの構成)の確認にご活用いただければと思います。

Lage Lund Trio / Standards (Amazon)

Lage Lund Trio / Small Club, Big City (Amazon)

アナライズされた方法論の拡張

分析され精製されるアイデア達をどのように使うかをご紹介することを中心に本書は構成されています。 その為、読者の皆様自身でエクササイズの開発などに励んでいただき音楽的なコンテキスト(文脈)へ挿入できるよう準備をしていただければと思います。
中にはいくつかの練習のためのピースをスケッチしておきましたのでそちらもご参考になさってください。 練習のためのピースには参考動画へのリンクを貼り付けてありますのでそちらの動画達もインターネットブラウザ上からご観覧が可能です。

(ご利用のインターネットブラウザ動画などのメディア再生にご対応していない場合はお手数ですが別のインターネットブラウザでお試しください。)

練習方式の捻出

練習法を編み出すために秩序立った練習のプロセスを考える必要があります。

例えば本書で扱っている「オブリガートな演奏手法」を習得する為の練習構築を例にあげてみましょう。

プロセスとしては、まずギターの指板上で「コードの3度音と7度音が確認できるか否か？」に問いかけてみます。それが難しいようでしたら３弦と４弦のみでまず３度音と７度音の配列を学習していきます。

３度音と７度音の構成としては、メジャー/マイナー/ドミナント/マイナーメジャー７の計４通りのコートタイプを考え出すことができます。

それらを５弦と６弦の２本の弦にわたるルートの位置から判断できるようにするのが良いでしょう。
さらには３度音と７度音の２つの音は２弦と４弦など１本の弦をまたいだ形でも演出が可能です。

このように手法それぞれにおけるギターのフィンガリングの可能性を考案し練習されると良いでしょう。

また練習をより秩序立てたものとするためにポジションプレイでの練習を忘れないようにしましょう。

ポジションプレイに関してはYouTubeでのギターレッスン動画にてお話ししておりますのでぜひそちらもご参考になさっていただければと思います。

ポジションを意識したジャズギターの効率的な練習法について ギターレッスン【43】

https://www.youtube.com/watch?v=JOlHH3CW1Js

教材ファイルについて

エクストラファイルは各譜例の下記に示してある灰色のセクションからご確認いただけます。

(例)

オーディオトラック ○○

ファイルにはコンテンツ保護のためロックがかかっております。お手数ですが下記のIDとパスワードをご入力いただきご確認ください。

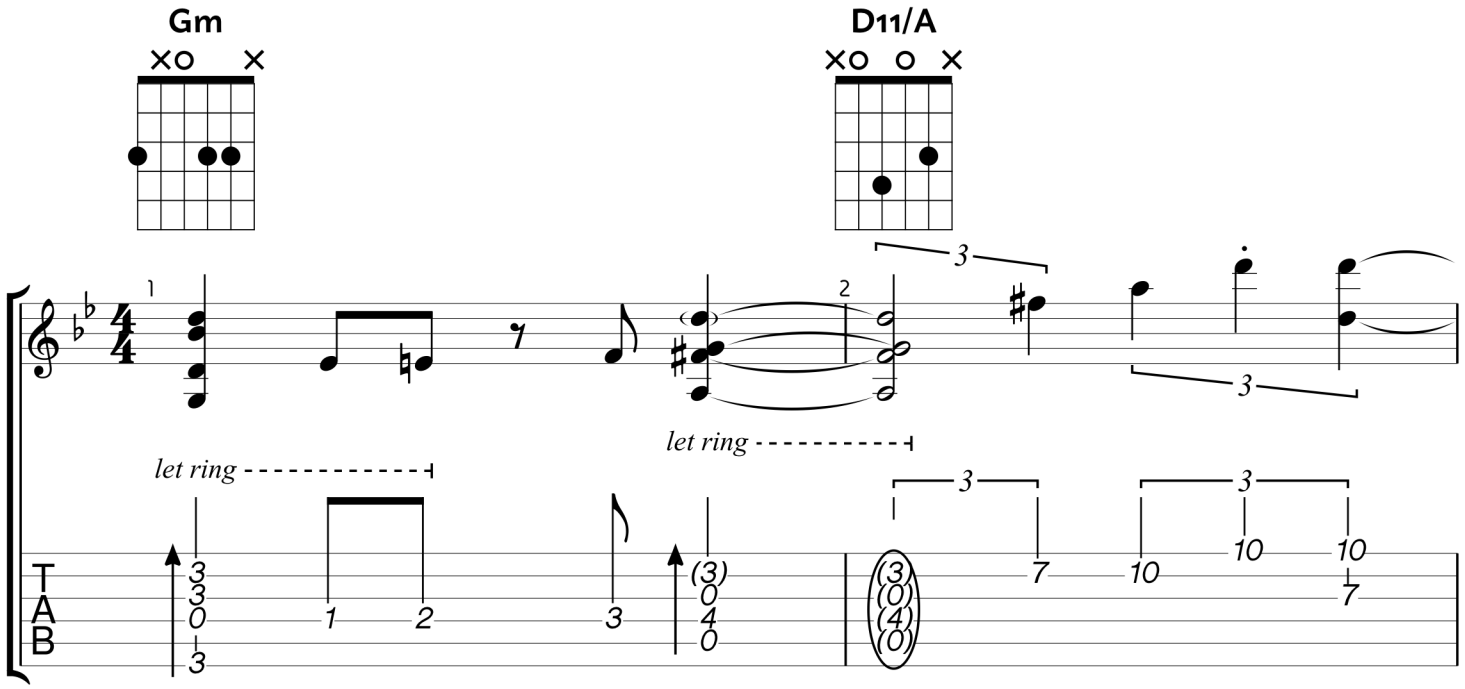
ID 「●●●●●●●●●●」 パスワード「●●●●●●●●●●」

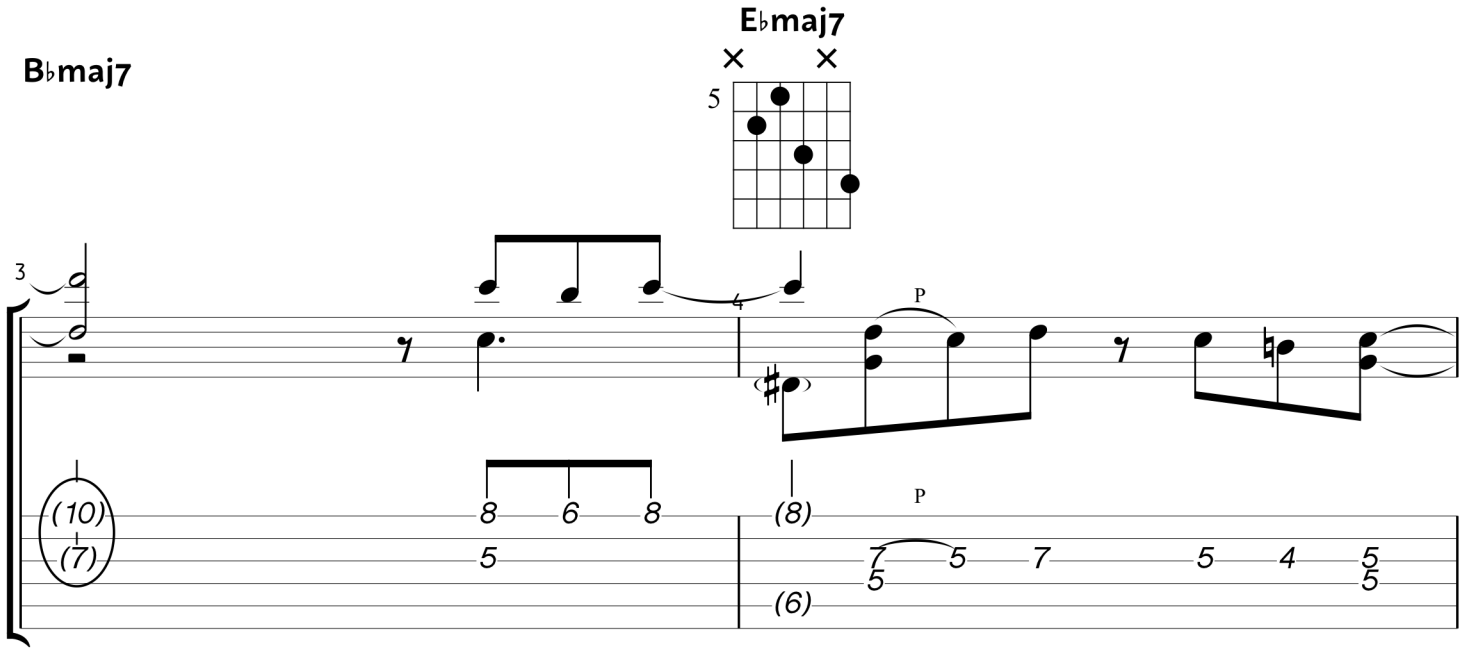
HERE'S THAT RAINY DAY

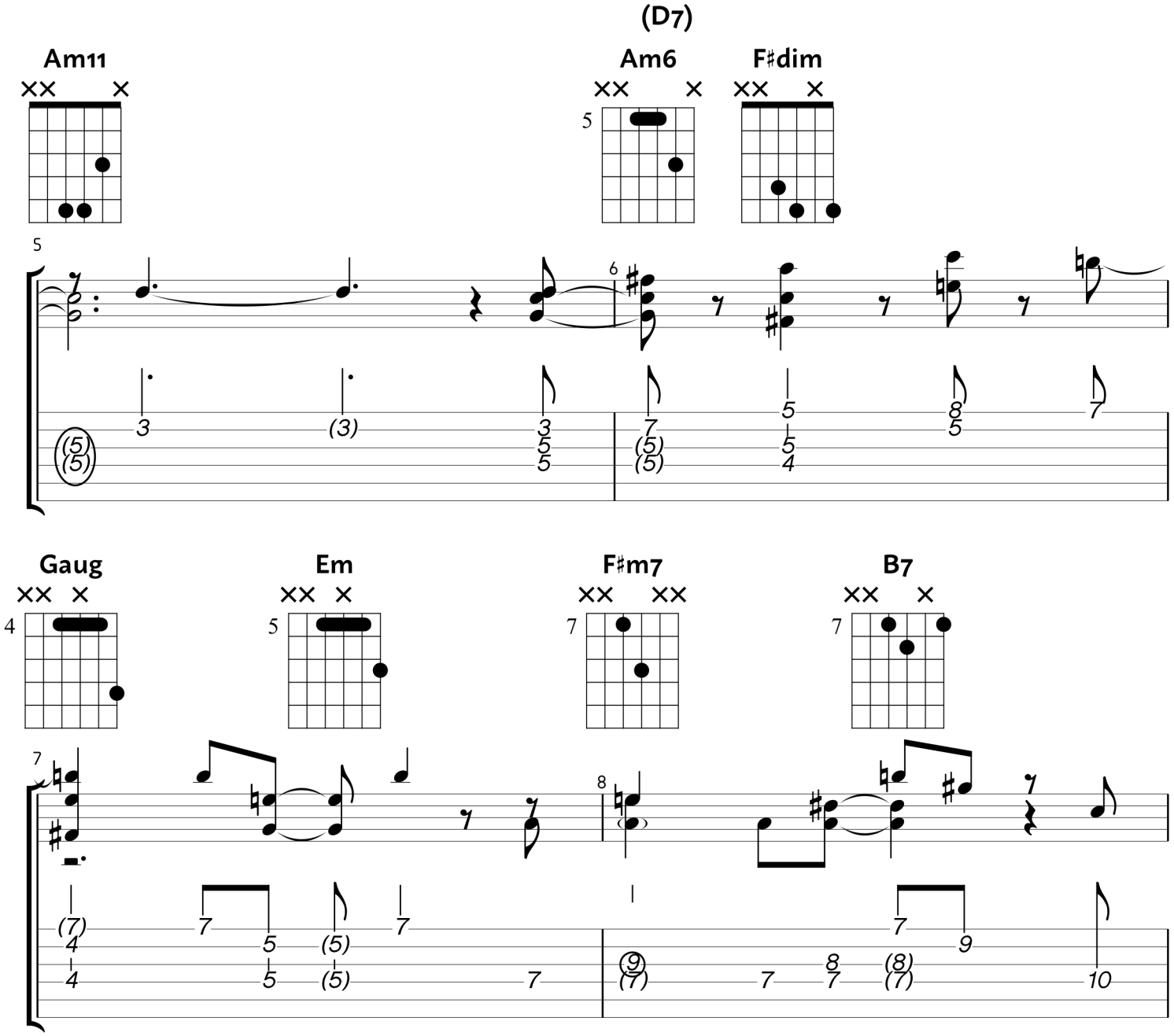
Guitar + Bass + Metronome

Guitar + Bass

Guitar Only



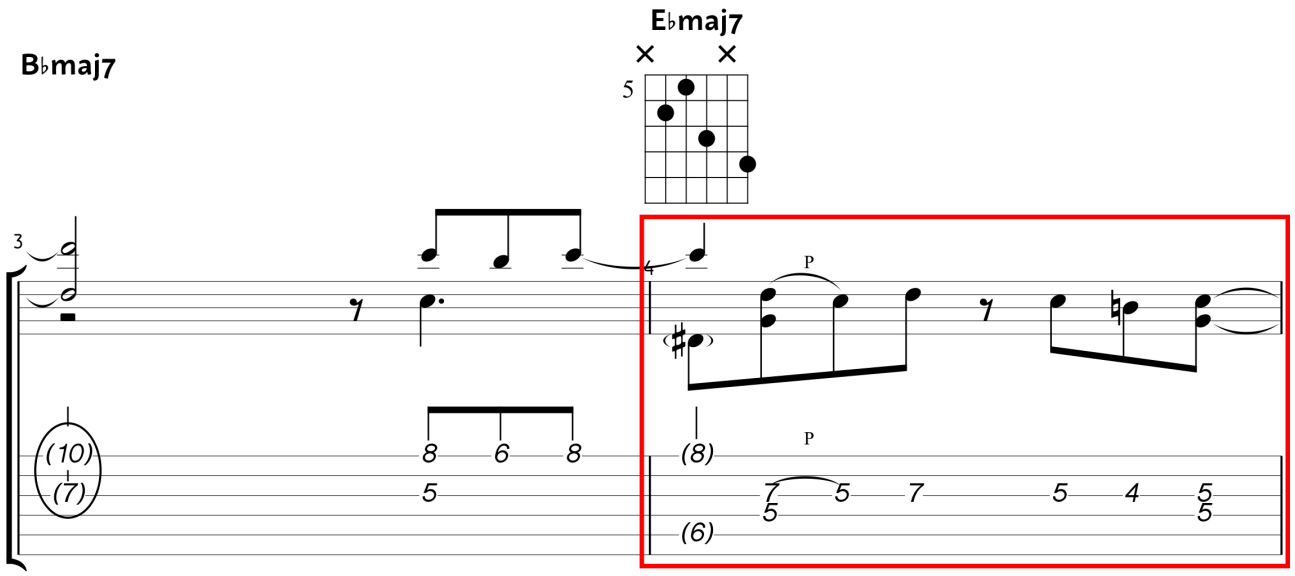



(D7)
Am11
Am6
F♯dim
Gaug
Em
F♯m7
B7

HERE'S THAT RAINY DAY ANALYSIS

オブリガートな演出

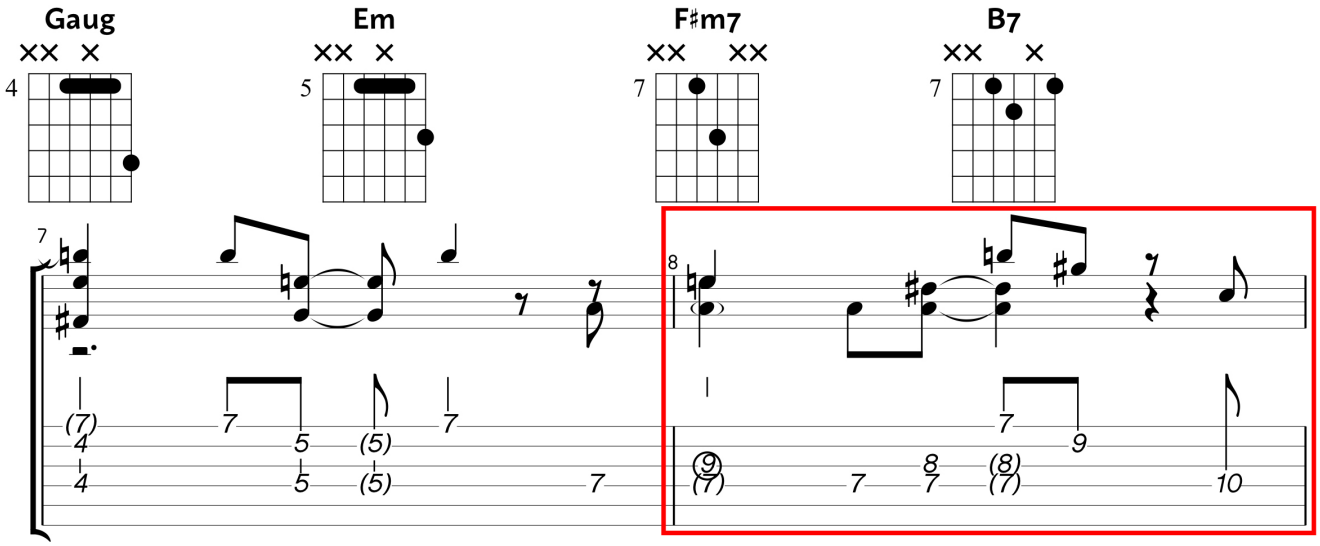
４小節目と７～８小節目ではトップのメロディーに対してカウンター的なサウンドを確認する事ができます。まずはテーマの４小節目を確認してみましょう。



オーディオトラック１

テーマの４小節目(下記譜例)ではトップのメロディーに対してE♭M７のドロップ２コード(ここでは５th音が欠落しています)を想定している様に感じられます。

続いてはテーマの７～８小節目を確認してみます。



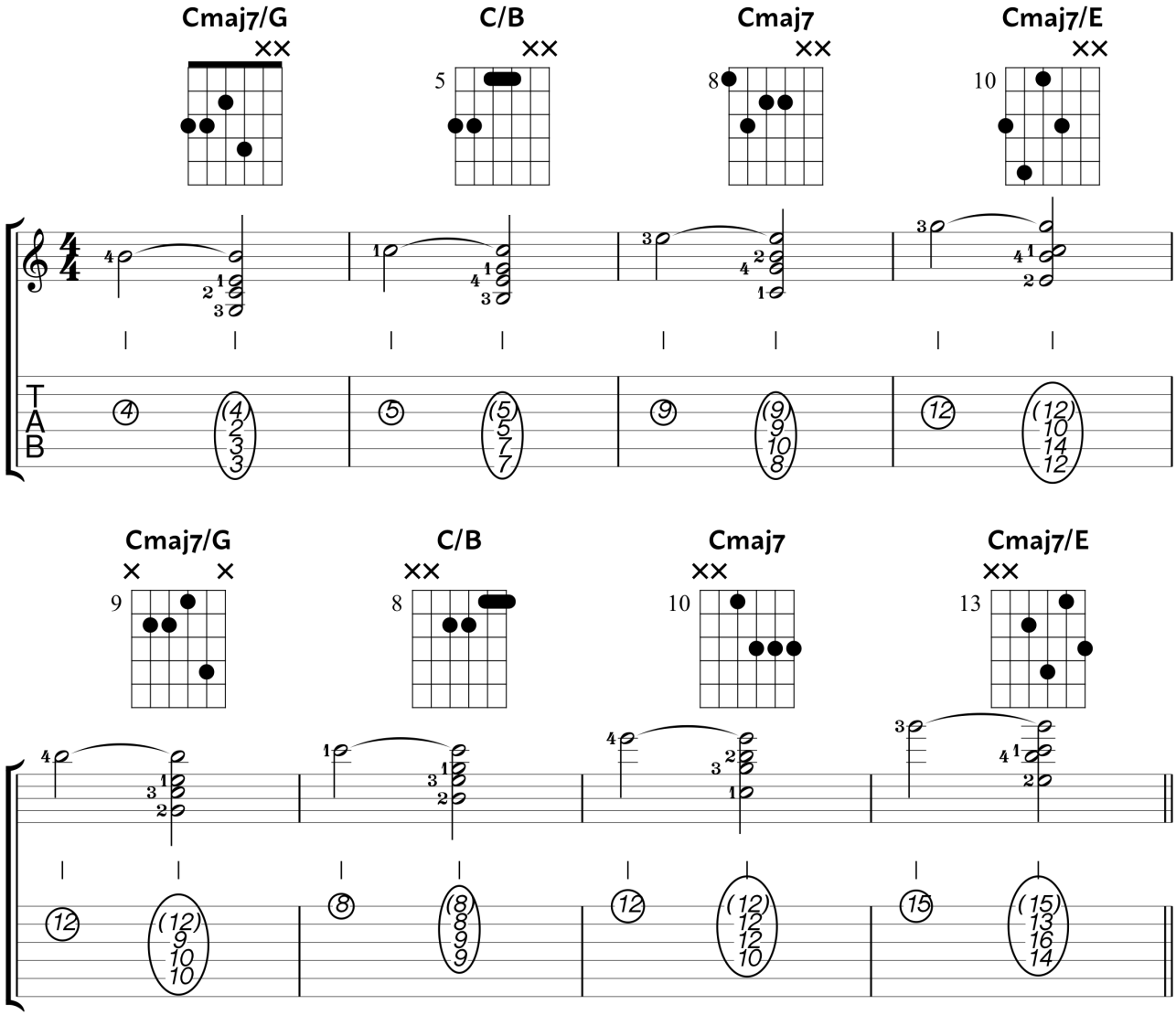
オーディオトラック２

ちょうどピアニストの左手に当たる様な演出となっています。

このドロップコードを用いたピアノライクなサウンド演出は現代ジャズギターの傾向ともいえる演出法です。

ここでドロップ２コードのメロディー装飾の効果的なエクササイズ例をあげておきますので是非ご参考になさってください。

練習１ ドロップ２コードメロディーエクササイズ



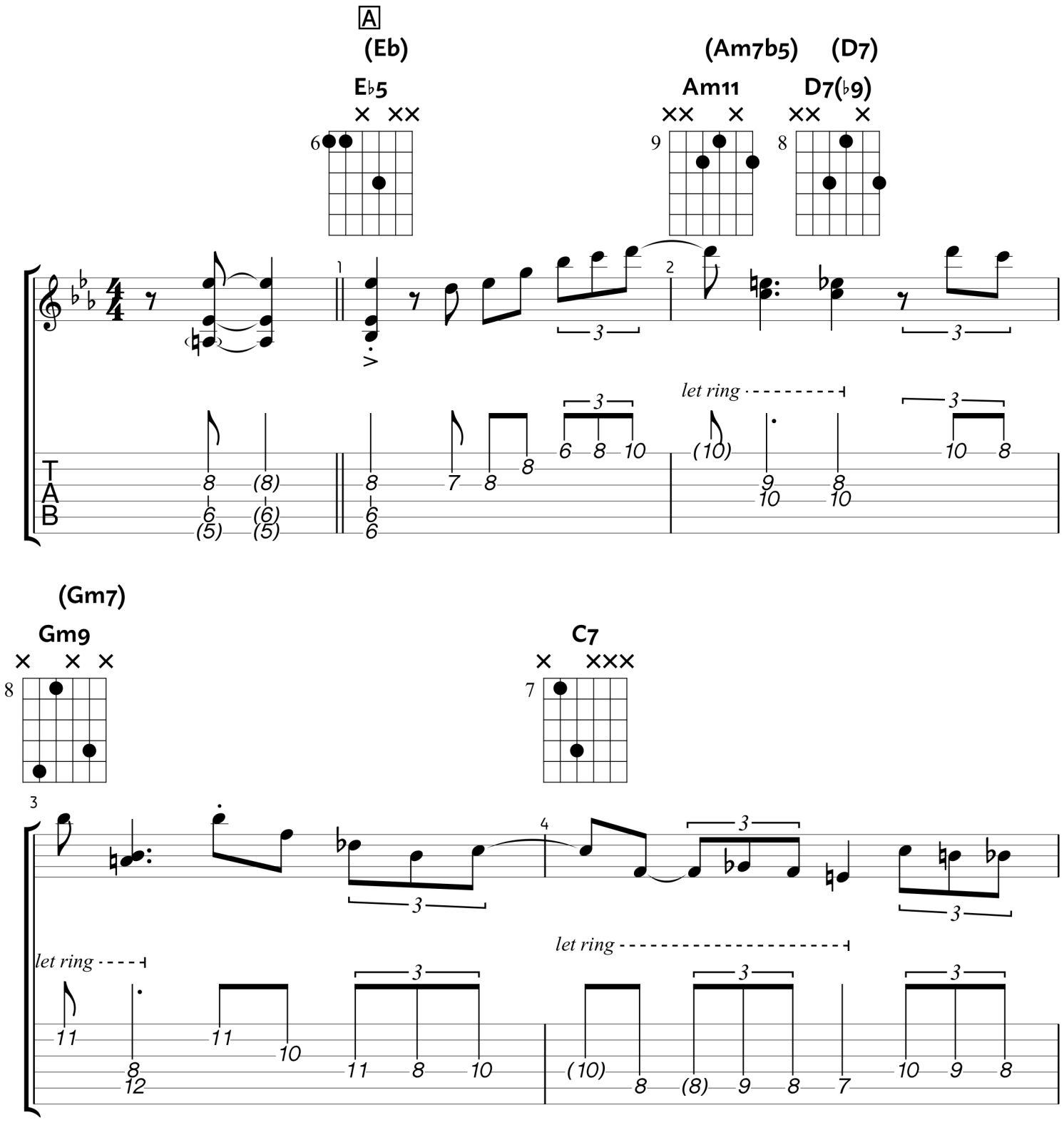
ムービーファイル１

I'M GETTING SENTIMENTAL OVER YOU

Guitar + Bass + Metronome

Guitar + Bass

Guitar Only



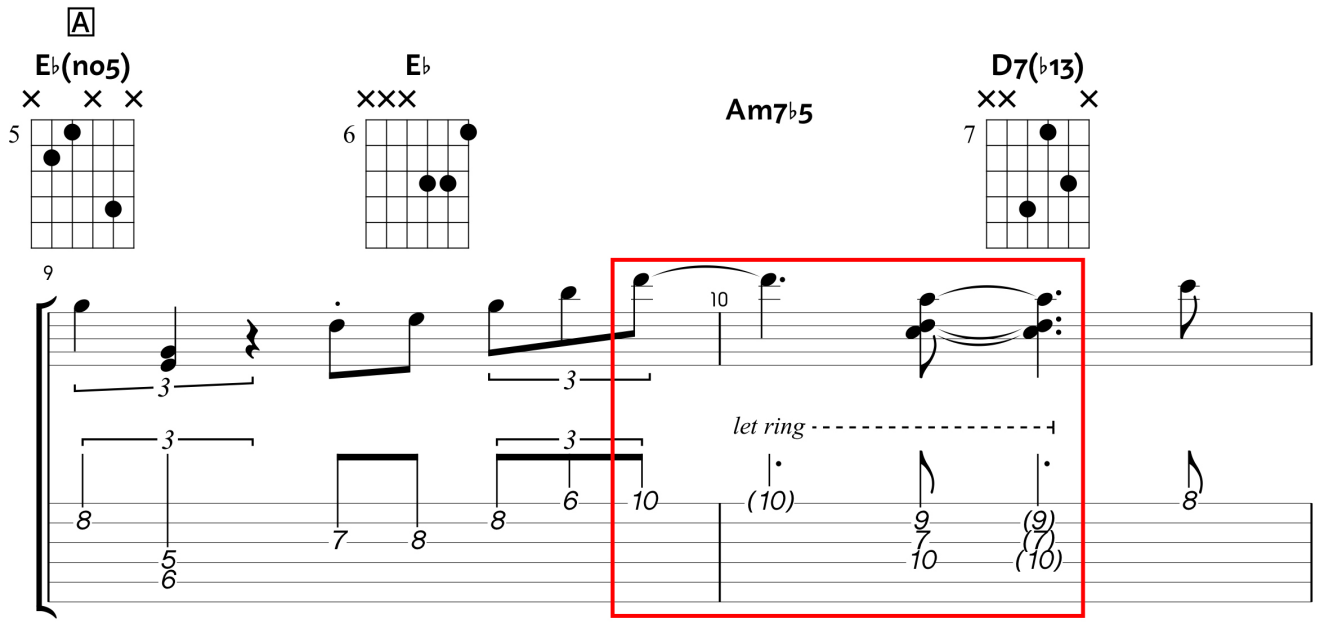
I'M GETTING SENTIMENTAL OVER YOU ANALYSIS

ドミナントでのSUS４トライアド

テーマ１０小節目ではD７コードに対して思い切った演出を図っています。

Dのメロディーを引き延ばしたままA♭Sus４トライアドを上に重ねています。

テーマ 9〜10小節 ドミナント７コードでのSUS4トライアド



オーディオトラック 12

D７に対してA♭コードは裏コードとなり、そのトライアドをインターバルの視点から積み上げる事で新しいサウンドへと昇華させることができます。

シンプルにA♭のメジャートライアドでの演出ももちろん可能ですが、ここでもコードと音程の重さや響きを意識してコードをチョイスしているように感じられます。